

話題 1

パネラーの自己紹介

前半の感想

話題2

市町村の疲弊や苦悩を起こしている
原因は何か？

質問を受け付けます

最後に回答させて頂く
時間を設けます。

特に悩みを抱えている市町村や
興味がある市町村は質問を御寄せ下さい。

- 質問のある方は画面下のQ&Aボタンを押下の上、
入力して下さい。
- 全ての質問に対応できないかもしれません、ピッ
クアップさせて頂きます。



話題3

メンターの役割、機能とは何か？

どんなことを市町村に伝えているのか？

- (1) 事業の目標や目的の再設定
- (2) 成功のモノサシづくり
- (3) チームビルディング、組織開発
- (4) ロジックモデルを用いた実践と合意形成

話題4、質疑応答タイム

セミナーのタイトルをどう実現するか？
確かな手ごたえと成果を導く動的な地域包括ケアへ
～成功の好循環が生まれる政策形成の秘訣～

これからどうしようか
考えている人へのメッセージは？

今後の市町村支援の在り方は？

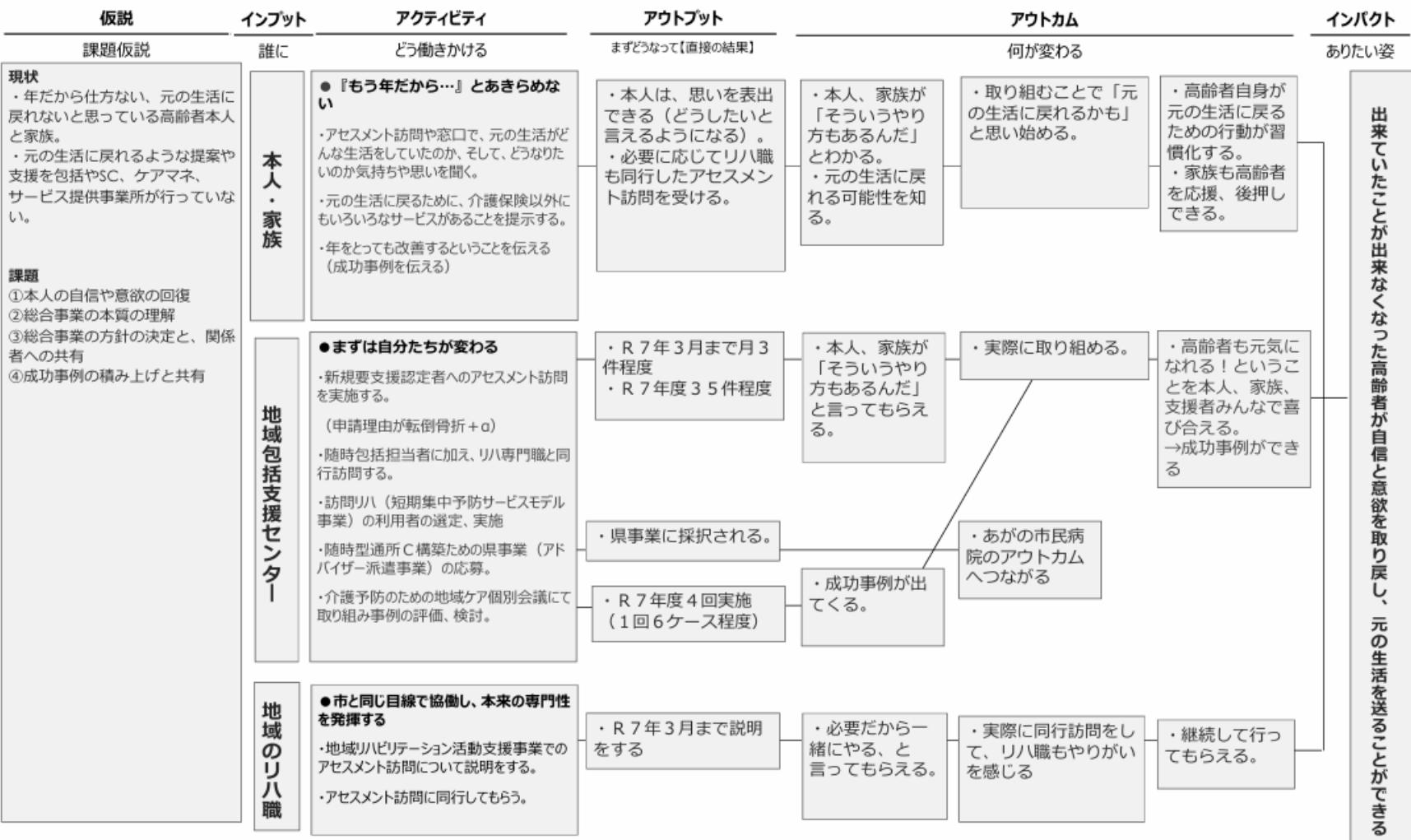
以下は
討論で用いた資料
or
討論に向けて準備した資料

※当日、使わなかった資料も含みます。

阿賀野市のロジックモデル①

課題解決ストーリー（ロジックモデル）【効果発現経路】

タイトル：出来ていたことが出来なくなった高齢者が自信と意欲を取り戻し、元の生活を送ることができる

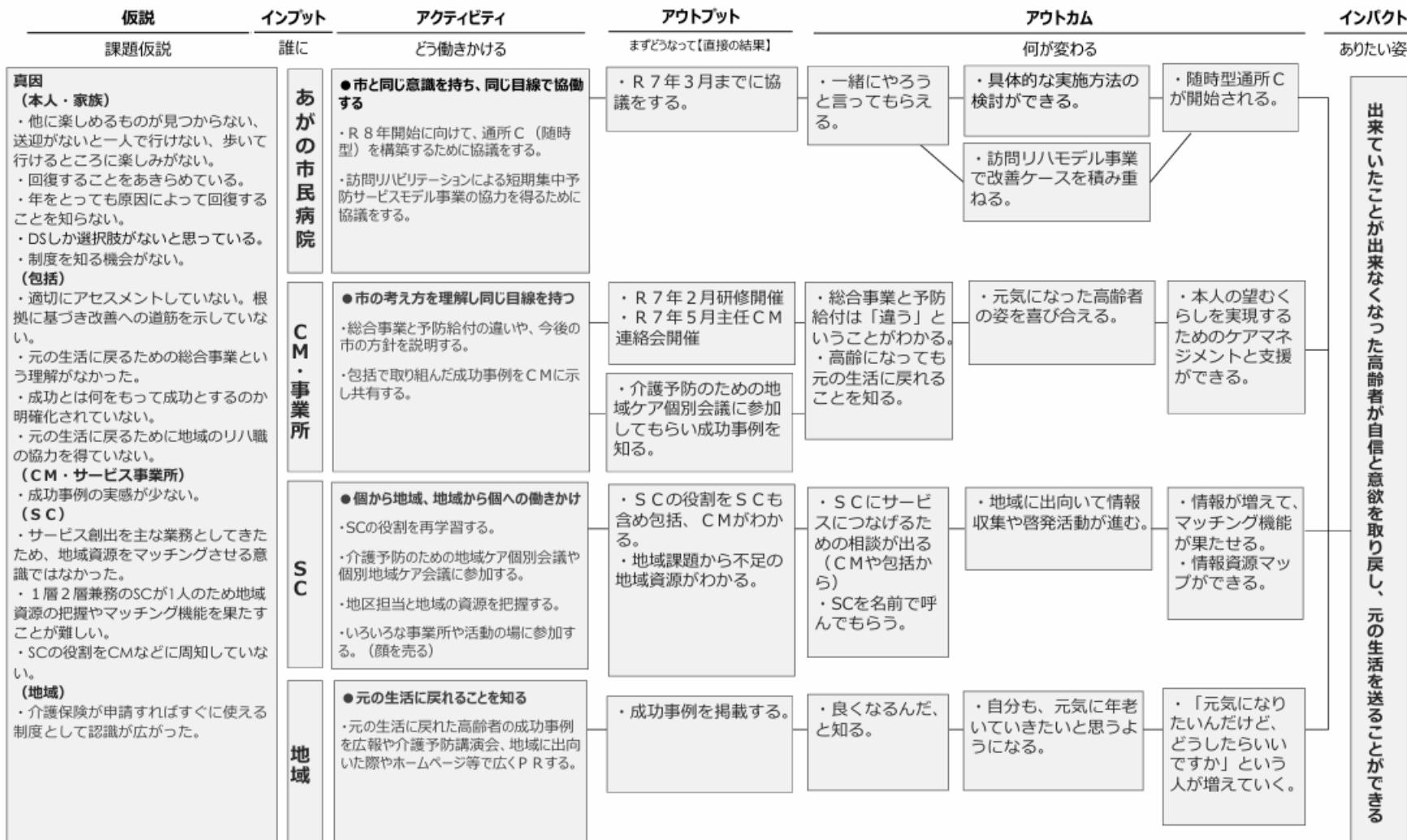


出典：2025年2月10日「令和6年度アジャイル型地域包括ケア政策共創プログラム第5回最終報告」資料から抜粋

阿賀野市のロジックモデル②

課題解決ストーリー（ロジックモデル）【効果発現経路】

タイトル：出来ていたことが出来なくなった高齢者が自信と意欲を取り戻し、元の生活を送ることができる



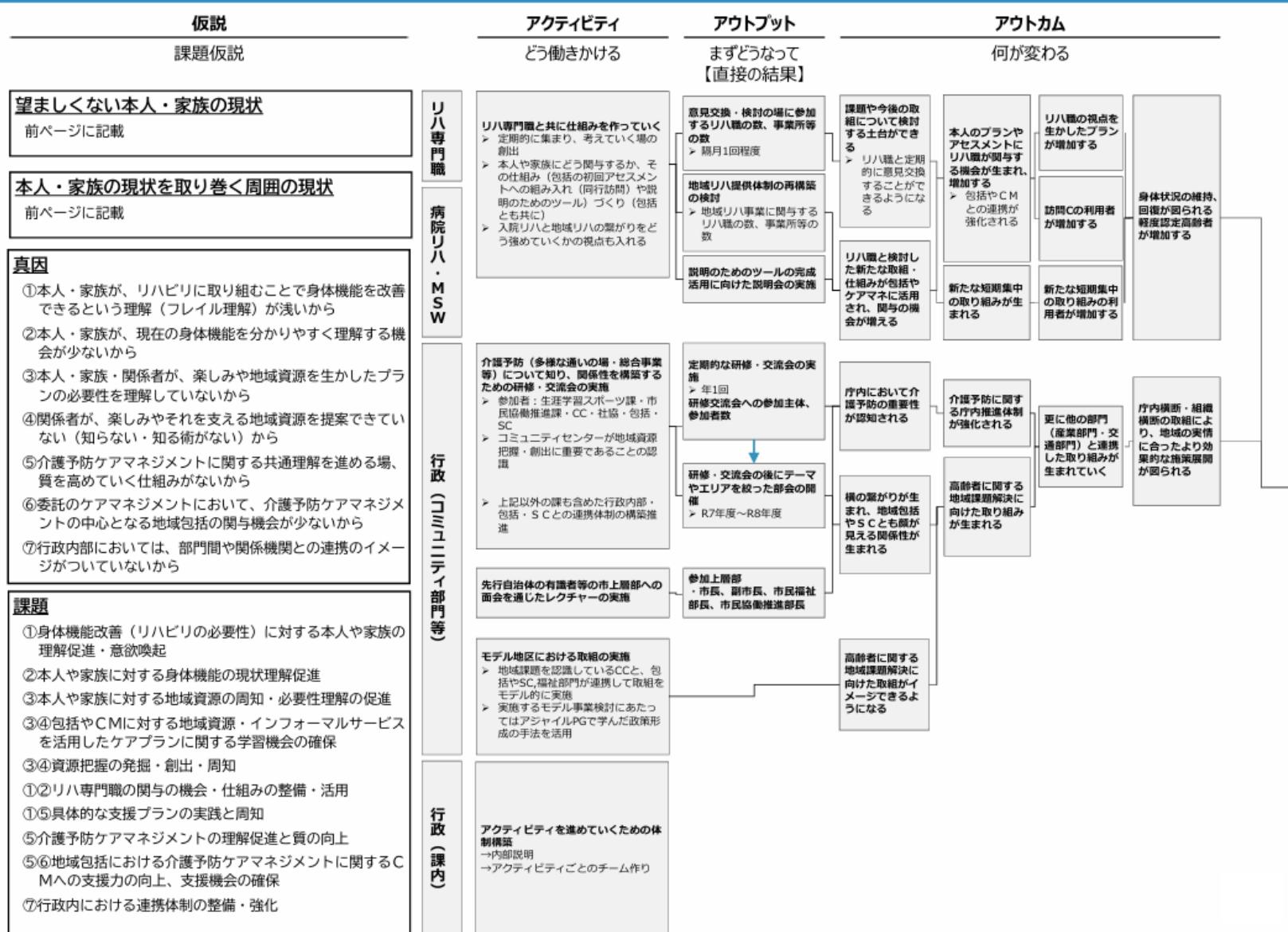
出典：2025年2月10日「令和6年度アジャイル型地域包括ケア政策共創プログラム第5回最終報告」資料から抜粋

須賀川市のロジックモデル①



身体的理由により軽度認定になつても、身体機能を維持・改善して生き生きとした生活を送れている

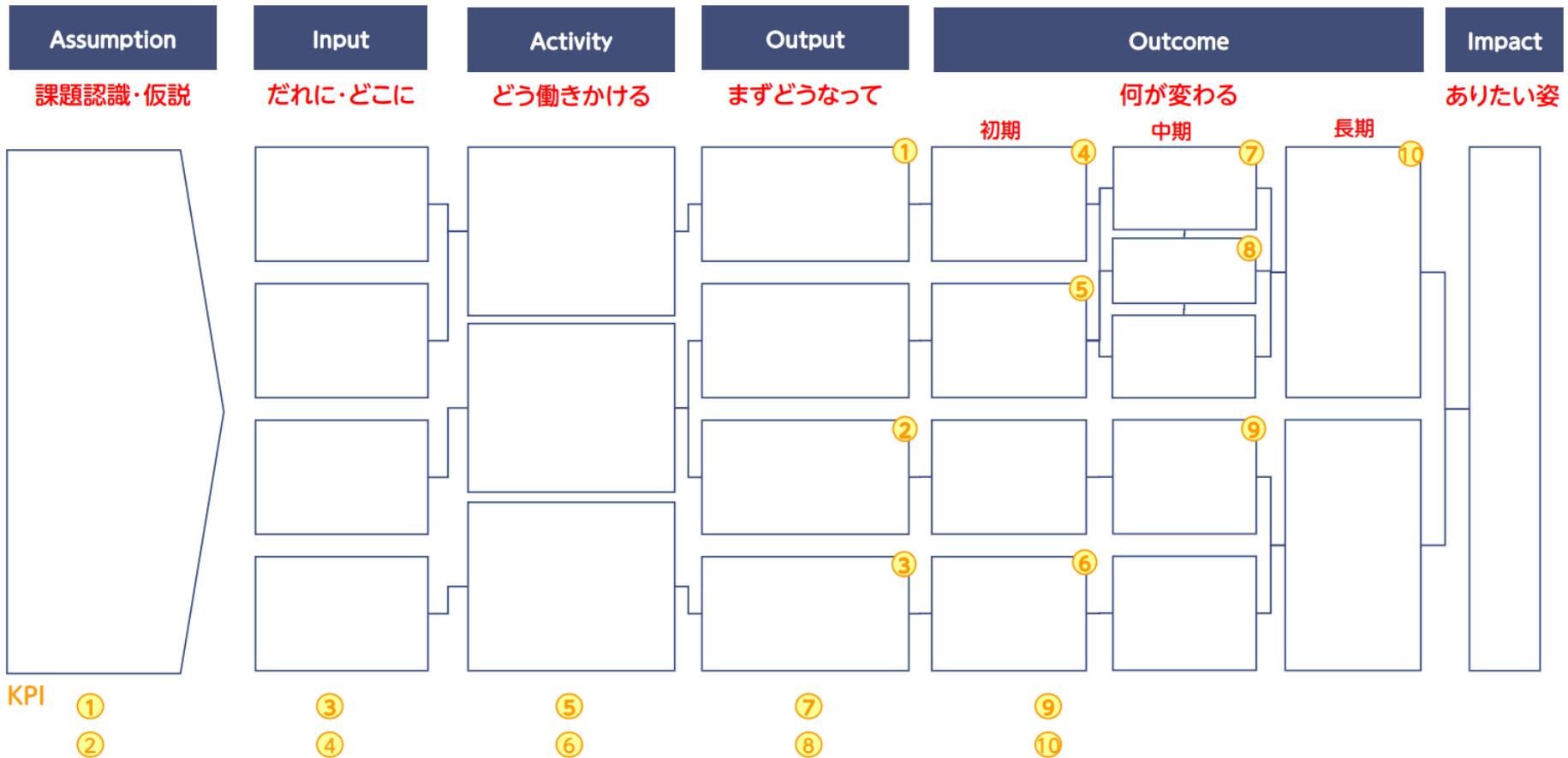
須賀川市のロジックモデル②



身体的理由により軽度認定になつても、身体機能を維持・改善して生き生きとした生活を送っている

ロジックモデル

政策を実施した場合、目的に向かうまでの経路波及効果をチェックし、現状把握や関係者の合意形成に用いるためのツール。



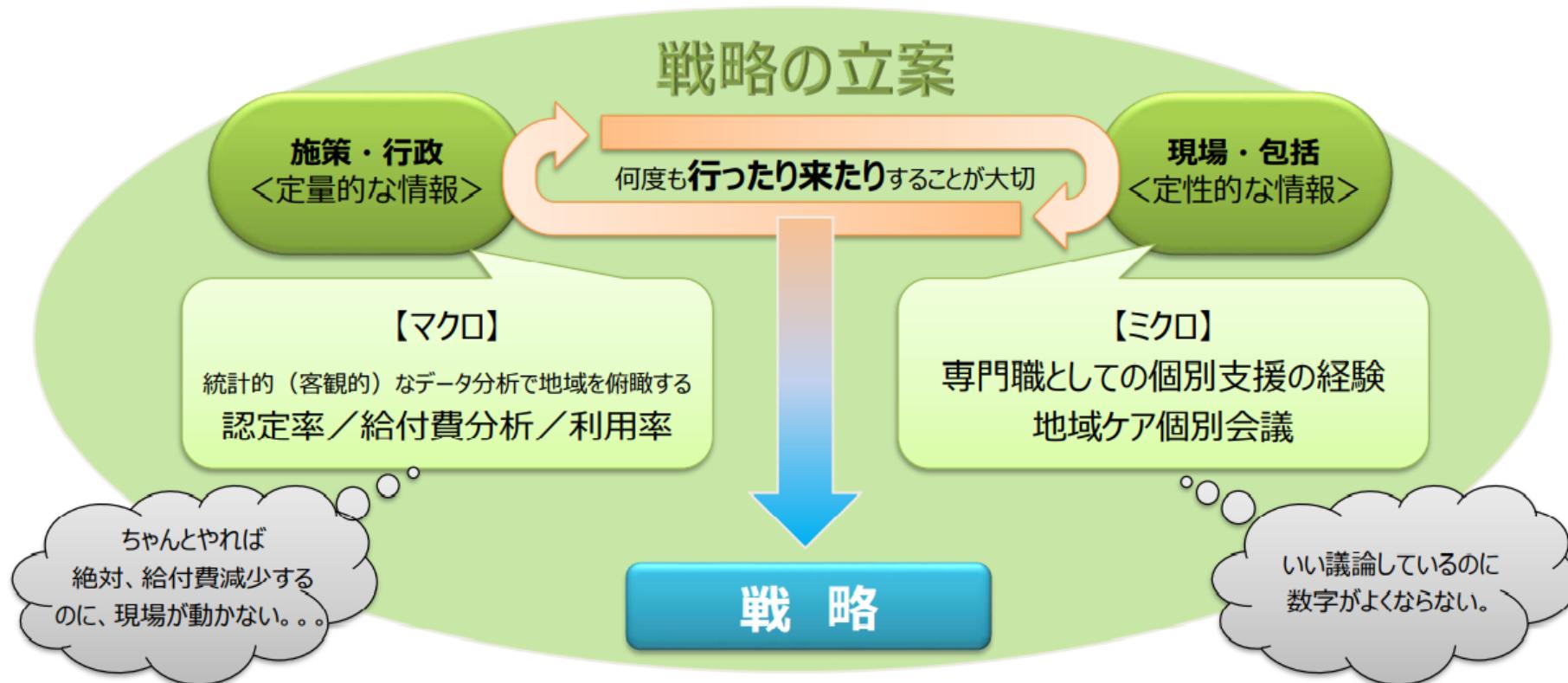
出典：2023年4月作成の内閣官房行政改革推進本部事務局「EBPMガイドブック Ver1.2」
亀井善太郎「第12回～第15回府省庁横断勉強会（EBPMワークショップ）用テンプレート」（2022年8月）

政策効果の発現に至る経路波及効果や因果関係を示す
「ロジックモデル」は現状把握や関係者との合意形成に有益

課題をとらえるにはミクロの情報が不可欠

■マクロとミクロを行ったり来たり

- 着任するなり「最初から戦略が立案できる」という人はいない。多くのキーパーソンは、**個別支援の事例（ミクロ）と地域全体の改善（マクロ）**を「行き来」しながら、試行錯誤して、解決に向けたシナリオを作成している。
- ミクロの情報や体験を得る場としては「地域ケア個別会議」があるが、包括職員が感じている「現場あるある」が出発点とすることが有効。マクロ情報は、KDBや「見える化」システム、レセプトデータなど保険者が所有するデータを活用も。

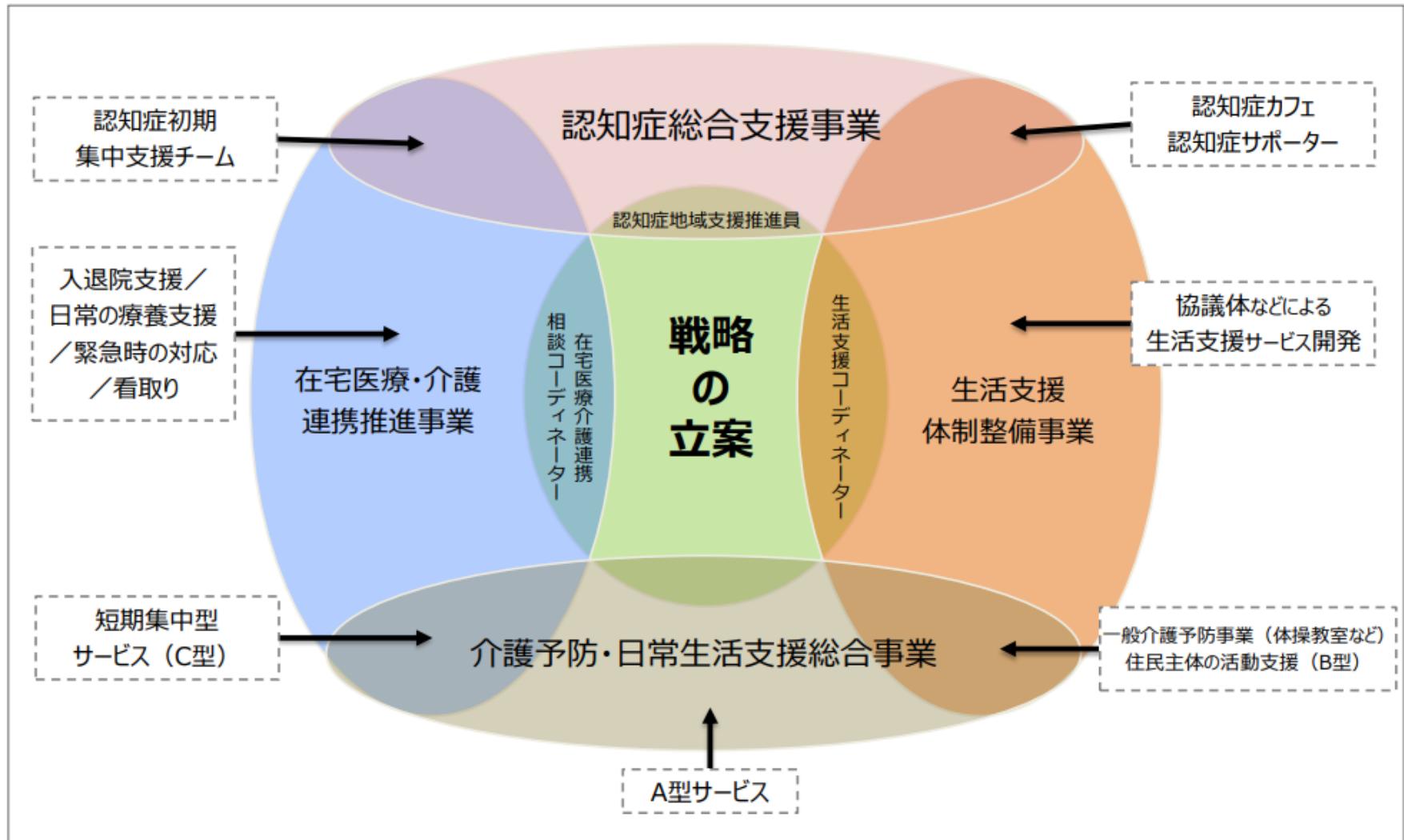


資料) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社、平成30年度厚生労働省老人保健健康増進等事業「地域支援事業における運動性の確保に関する調査研究」報告書概要版をもとに、演者が一部表現を改変。



地域支援事業の連動性

それぞれの事業実施を目的にするのではなく、
事業の関係性を意識しつつ戦略を立てることが重要。



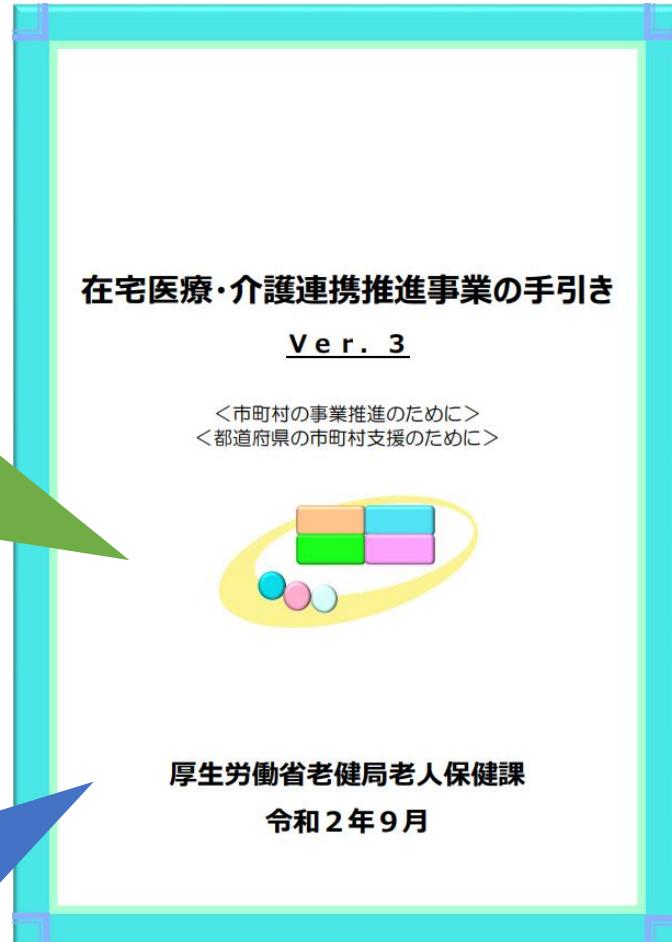
出典：三菱UFJリサーチ＆コンサルティング（2019）「地域支援事業の連動性を確保するための調査研究事業報告書」（老人保健健康増進等事業）から抜粋

手引きに例示されている「残念なできごと」

在宅医療・介護連携推進事業と認知症総合支援事業で、別々に同じような研修が同じ時期に実施された逸話などが紹介されている。

手引きに登場する「残念なできごと」の一例

- 最近の動向に合わせて、「認知症」をテーマに、本事業の担当部署が医療・介護関係者の研修を実施した。
- 数日後、認知症を所管する部署が、医療・介護関係者を集めて研修を行ったことを知り、内容を確認してみると、在宅医療・介護連携推進事業では、「医療と介護の連携」を切り口に、「認知症」をテーマに、認知症総合支援事業において、「認知症」を切り口に、「医療と介護の連携」をテーマに実施していたことが判明、どちらも多職種連携も視野に入れていたため、参加者も同じであった。
- 毎年、住民への啓発や医療・介護関係者への研修も、たくさん実施して、啓発や研修後にアンケートを実施している。
- アンケート結果は「概ね好評」なので、事業評価は「良好」としているが、実は住民や医療・介護関係者に、啓発や研修内容が浸透していなかつた。



出典：厚生労働省資料から抜粋